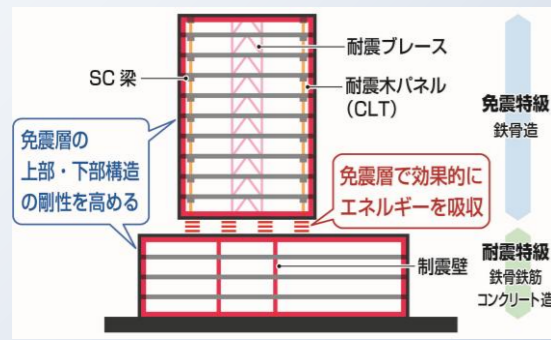


◆ 5つの設計方針

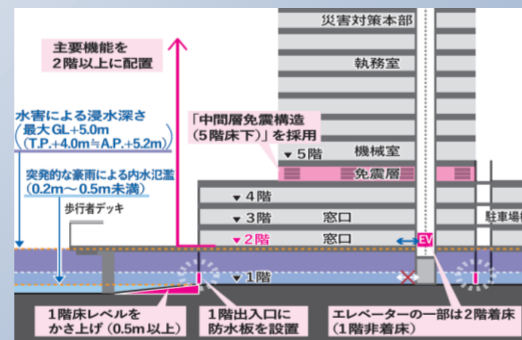
「実施設計」では、5つの設計方針を技術的に検討した「基本設計」を基に、デザイン・技術の両面で計画内容を深度化しました。

設計方針1 これからの100年を支える日本一の防災庁舎

■ **地震対策** 大地震が発生しても区民の安全・安心を守る庁舎として機能継続できる強靱な庁舎をつくりまします。



■ **水害対策** 水害が発生しても庁舎機能を継続できるように主要機能を2階以上に配置します。



■ **防災拠点機能** 長期間の自立運用を見据えて、最大2か月程度のライフラインを維持します。

- 電源** 非常用発電機はオール・ガス併用のデュアル燃料方式を採用。中圧ガス途絶時は備蓄油の発電で100%運用を7日間維持。
- 飲料水** 受水槽残水、蓄熱槽貯留水利用により確保。
- 雑用水** 受水槽残水、蓄熱槽貯留水、雨水のろ過処理、井戸水浄化、し尿処理循環水利用により確保。
- 下水** 排水槽に一次貯留し、中水処理を行い雑用水に再利用。

設計方針2 協働・交流の拠点として、多様な場を持つ庁舎



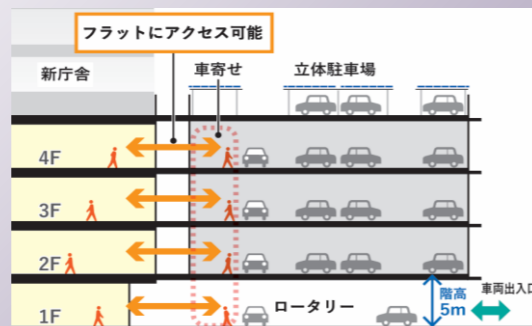
■ **アトリウム広場** 新庁舎の「顔」として、公園のようにひらかれ、区民のコミュニティ形成の拠点となる「アトリウム広場」を整備します。

■ **コミュニティ広場** まちの新たな交流の場となる「コミュニティ広場」を整備します。円滑なイベント運営のため、配管・配線を納める側溝を予め敷設します。

設計方針3 共生社会を体現し、将来の社会ニーズの多様化にも対応する庁舎

■ **ユニバーサルデザイン** すべての人に配慮した利用しやすい庁舎を目指し、障害のある方やLGBTQの方など幅広くご意見を伺い、設計に反映しています。

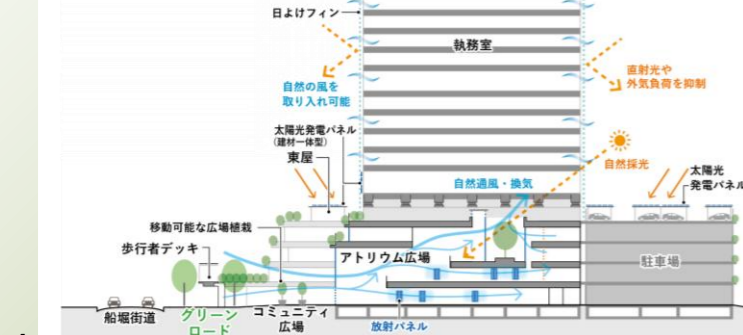
- ・ **手洗所** 男女別トイレや、バリアフリートイレ、性別に関わらず利用可能な個室タイプのトイレを各階に設置します。
- ・ **駐車場** 立体駐車場と庁舎はフラットにアクセスできるよう整備します。



設計方針4 水とみどりを活かし、最先端の環境性能を持つ庁舎

■ **ZEB Readyの実現** 一次エネルギー消費量を50%以上削減し、ZEB Readyを実現します。

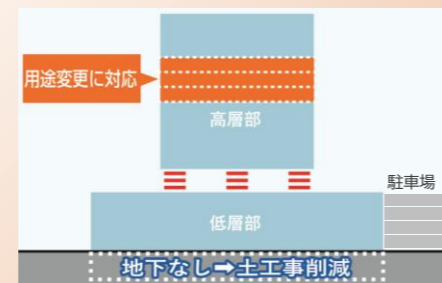
■ **CASBEE Sランクの達成** 建築環境総合性能評価システムCASBEEでSランクの取得を達成します。



設計方針5 社会の変化を見据え、可変性・経済性に優れた庁舎

■ **執務室階の標準化** 用途変更にも柔軟に対応できる可変性に優れたフロア計画としています。

■ **地下階のない断面構成** 地下階をつくらない計画とすることで、土工事や地下躯体工事にかかる工期・コストを削減しています。



■ **合理的な構造形式** 風洞実験の結果を踏まえ、鉄骨量や免震装置の仕様を合理化しています。

■ **合理的な内装及び設備計画** 内装及び設備仕様の見直しを行い、コスト削減を図っています。

江戸川区新庁舎実施設計がまとまりました

◆ これまでの歩み

現在の区役所本庁舎は、建設から約60年が経過し老朽化が著しい状況で、現状のままでは、区民の生命・財産を守る拠点として心許ない状況にあります。また、窓口の狭あい化や分散化、バリアフリー対応の不足など、区民サービスに直結する問題を抱えるとともに、事務効率の面でも支障が生じています。

これらの課題を受け、新庁舎建設に向けて「基本構想・基本計画」「基本設計方針」を策定、与条件や各種法規制などを技術的に検証した「5つの設計方針」に基づいて「基本設計」を行ってきました。

この度、完成した「実施設計」では、災害対策機能、協働・交流の拠点、ユニバーサルデザイン、省エネルギーへの対応に加え、将来のレイアウト変更・用途変更を見据えた可変性の高い計画などを具体化しています。

引き続き、誰もが安心して利用でき、災害時には防災拠点として区民を守る庁舎づくりを進めていきます。

- R3.3 「基本構想・基本計画」策定
- R5.6 「基本設計方針」策定
- R6.7 「基本設計」策定
- R8.3 「実施設計」完成
- R9年度以降 解体・建設工事開始 (予定)
- R15年 新庁舎完成 (予定)

◆ 計画概要



敷地面積	9,620.60㎡
建築面積/建ぺい率	7,386.21㎡/76.77%
延床面積	60,840.29㎡
容積対象床面積/容積率	47,994.33㎡/498.87%
階数/高さ	地上21階 (建築基準法上22階) / 約99m
主要用途	庁舎、駐車場
構造種別	庁舎棟 : 鉄骨鉄筋コンクリート造 (1~4階) + 鉄骨造 (5~21階・PH階) 中間層免震構造 (5階床下) 駐車場棟 : 鉄骨造 (1~5階)
基礎形式	杭基礎
駐車台数/駐輪台数	約210台 ^{※1} / バイク: 約40台 ^{※1} 自転車: 約700台 ^{※2}

※1: 庁用車含む ※2: 職員用含む



江戸川区新庁舎実施設計 (リーフレット版)
発行月 令和8年5月
編集・発行 江戸川区新庁舎・施設整備部建設技術課
連絡先 03-5662-3472 (直通)

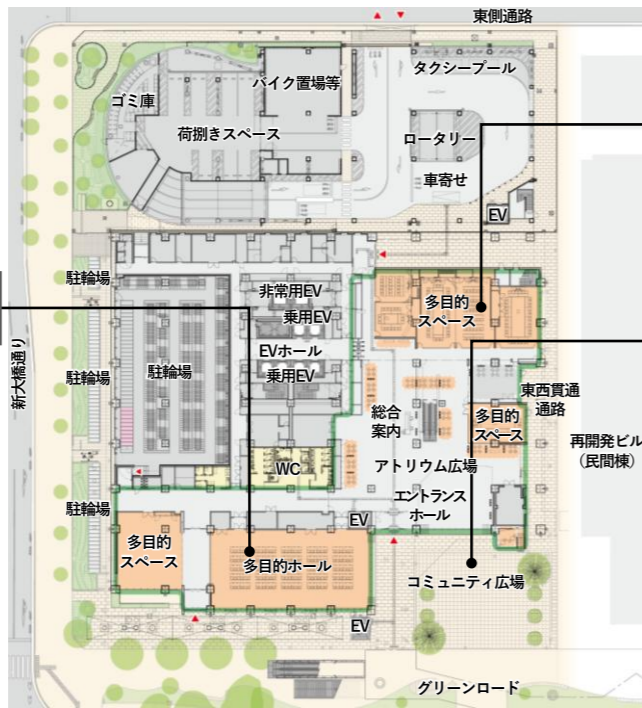


新庁舎建設の詳細は、区ホームページ (左記二次元コード) をご覧ください。

1階平面図・配置図

■にぎわいの創出
イベントや活動発表の場として多目的ホールや開放感のあるエントランスホールを整備します。

設計方針 2
多目的ホール
大型映像ビジョンを備え、幅広い利用形態に対応可能。



設計方針 2
多目的スペース
アトリウム広場や東西貫通通路に向けて、ガラス越しに内部の活動や賑わいを表出。

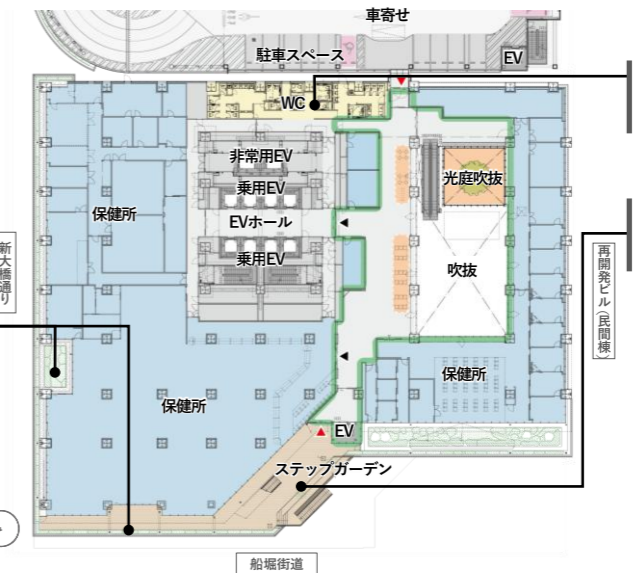
設計方針 2
コミュニティ広場
グリーンロードと一体となった、まちに開かれた広場空間。



4階平面図

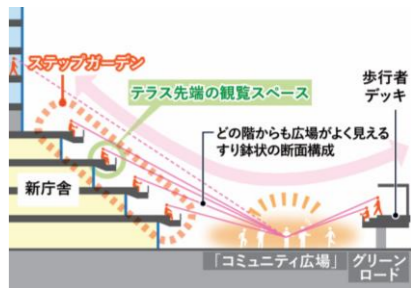
■保健所機能を集約
現在区内に分散している保健所機能を集約し、区民の利便性向上及び施設規模の合理化を図ります。

設計方針 4
テラス植栽
室内から自然を身近に感じられるように、プランター植栽等を手摺の内側に設置。



設計方針 3
トイレ計画
ユニバーサルデザインに配慮し、だれもが利用しやすい多様なトイレを計画。

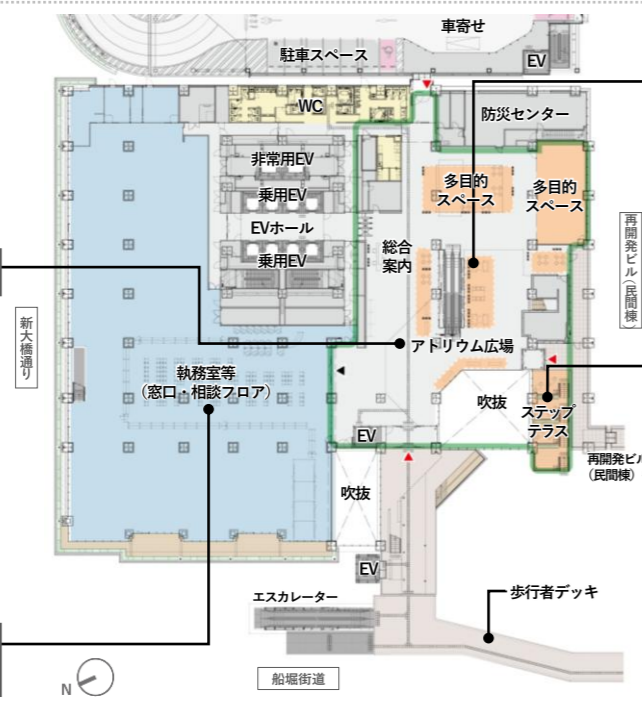
設計方針 2
ステップガーデン
コミュニティ広場に面した、広場の活動を一望できる観覧デッキ。



2階平面図

■区民活動スペースの充実
目的に応じた様々な活動や購買・飲食機能をもつ多目的スペースを整備します。

設計方針 2
アトリウム広場
だれもが利用できるオープンスペース。



設計方針 4
居住域空調
オープンスペース（人の居場所）に面して放射パネル（冷暖房）を配置。



設計方針 2
ステップテラス
ひな壇状のたまり空間。



基準階平面図

■フレキシブルな執務空間
執務室は可変性のあるオープンフロアとします。

設計方針 5
執務室（可変性）
レイアウト変更に柔軟に対応できるオープンな空間構成。



※上図は基準階における代表的なレイアウト

設計方針 4
執務室（省エネ）
省エネ性・快適性に優れた「天井放射空調システム」を採用。



11階平面図

■災害対策機能を集約
特別職関連諸室と災害対策本部を集約し、迅速な指令システムを構築します。



設計方針 1
ヘリポート（屋上）
東京消防庁が保有する最大機種へのヘリコプターが離着陸可能。



設計方針 1
災害対策本部室
消防や警察、自衛隊の災害応援も受け入れ可能な十分な規模を確保。



3階平面図

■光庭の整備
シンボルツリーを中心に水とみどりの光庭を整備し、江戸川らしい景観づくりを行います。

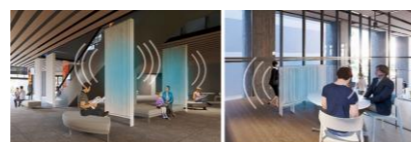
設計方針 4
風を導く、アトリウム広場の断面構成
中間期には、外窓を大きく開放することで、「風の道」を形成。



設計方針 4
光庭
中央にシンボルツリー、足元には水景を設け、四季の移ろいを感じられる空間。



設計方針 4
居住域空調
オープンスペース（人の居場所）に面して放射パネル（冷暖房）を配置。



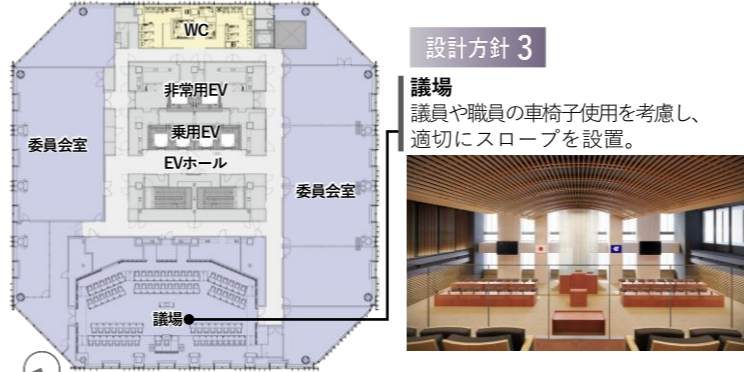
21階平面図

設計方針 3
傍聴者ロビー
だれもが利用しやすい畳敷きの小上がりを設置。



20階平面図

■臨場感・一体感を生む議場
区民と議会の距離が近い横型レイアウトを採用しています。



設計方針 3
議場
議員や職員の車椅子使用を考慮し、適切にスロープを設置。



凡例
 ▼ 主出入口
 ◻ 協働・交流ゾーン
 ◻ 区民機能
 ◻ 行政機能
 ◻ 災害対策本部
 ◻ 特別職関連諸室
 ◻ 議会機能
 ※ 今後変更となる可能性があります。

◆ フロア構成

■利用しやすいフロア構成
低層部に区民交流の場と来庁者の多い部署を集約的に配置し、高層部に議場やその他部署を配置します。

